

次世代日本研究者 協働研究ワークショップ プログラム例

※詳細は変更になる場合があります。

”ネットワークを構築し、協働研究を実践する力を養う”ため、の各種プログラムを用意しています。講義を通じた知識のインプットに留まらず、バックグラウンドの異なる参加者同士が議論するグループワークの時間を設けることで、より深い考察に繋げることを目指します。また、プログラムで得るネットワークを協働研究の実践の足場とできるよう、最終日には、異なる国・地域(国際性)、異なる分野(学際性)の者同士でグループを作り、実際に要旨(アブストラクト)作成や簡易のパネル研究発表を行い、講師からの講評を受ける機会を提供します。

| テーマ | 内容 |
|------------------------------|--|
| 学際研究の意義 | <p>講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学際研究とは何か。何故、分野を超えた研究協力が必要なのか、シニア研究者による概説 <p>ワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の研究テーマはどの学術分野に分類されるか。それはなぜか。別の分野であれば、どういった分野と連携が考えうるか。各自が分析し、グループ内で議論する |
| 研究内容 オリジナリティの 見つけ方 | <p>講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師のパーソナルヒストリーとともに、何故現在の自身の研究テーマに行きついたのか、紹介 ・講師はどのような経緯で現在の研究内容・研究方法に至ったか、自身の研究のオリジナリティを出すための工夫はどうしているのか、先行研究と比較した際の自身の研究の新規性をどう捉えているのか、知る <p>ワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の研究のオリジナリティは何か、各自が分析し、グループ内で議論する ・自分の研究でカバーできない部分は何か。そこをどう補っていくか。 |
| 「研究者」としての キャリアと 国際協働研究 | <p>座談会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロールモデルとなる、国際的な協働研究に取り組んでいる研究者たちによる座談会 ・彼らのパーソナルヒストリー、なぜ日本を研究するに至ったか、どういった学会で具体的に活動してきたか、国際／学際的な協働研究が彼らの研究活動にどういった影響を及ぼしてきたかを紹介 |
| 学会情報 奨学金情報 | <p>講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直近で挑戦すべき学会情報等の提供 ・奨学金を提供する団体等による情報セッション／ブース ・申請書作成に関する所作について、解説 |
| サイトビジット ／交流 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本国内の大学や研究所の訪問 ・日本国内の大学に所属する教員や学生との交流 ・その他、プログラム参加者間で交流を深める機会も提供 |
| グループ発表 | <ul style="list-style-type: none"> ・国際学会におけるパネル発表を想定した、模擬発表会を実施 ・パネルとしての要旨の作成をはじめとした発表資料作成について講師からのアドバイス ・パネルの一員として、自身の研究を発表し、講師からのコメントや参加者間でも相互に講評 |

【使用言語】

プログラムを通じて、日本語・英語どちらも用いる可能性がありますが、いずれの場合も通訳はありません。参加者は、両言語でインプット・アウトプットが可能である必要があります。